

宮崎県健康づくり協会における胃がん検診について

松尾知章 長友繁光 松尾哲人 岩切真澄 宮野竜一 沼口 誠 姫松一成 中村さつき
川崎美和 佐原泰子 栗谷耕児 湯田敏行 (財団法人 宮崎県健康づくり協会)

【はじめに】

胃がんは現在、日本人のがんの中で肺がんに次いで死亡率の高い疾患(男性2位、女性1位)で、1年間に約5万人が死亡している。

当協会では、昭和41年から県内での胃透視による胃がん検診を実施し、平成18年度末までの県内の総受診者数は累計で150万人を越え、1,931名の胃がんを発見している。実施については、宮崎県成人病検診管理指導協議会が示す、胃がん検診実施要領に基づき協会の健診精度管理委員会「消化器がん検診専門委員会」が定めた要領に従い実施している。

今回は、平成18年度の実施状況を中心とした胃がん検診の実績を報告する。

【目的】

胃がんの早期発見と早期治療の徹底を図り、県民の健康維持に寄与する。

【対象】

原則として県内在住の40歳以上の方とする。

【検診方法】

1) 問診

現在の病状、既往歴、家族歴、過去の検診の受診状況などを聴取する。

2) 撮影

発泡剤(5g)バリウム(濃度200W/V%、量120cc)服用後、8方向(日本消化器がん検診学会ガイドラインによる)のデジタル撮影又は間接撮影を行う。

3) 読影～結果報告

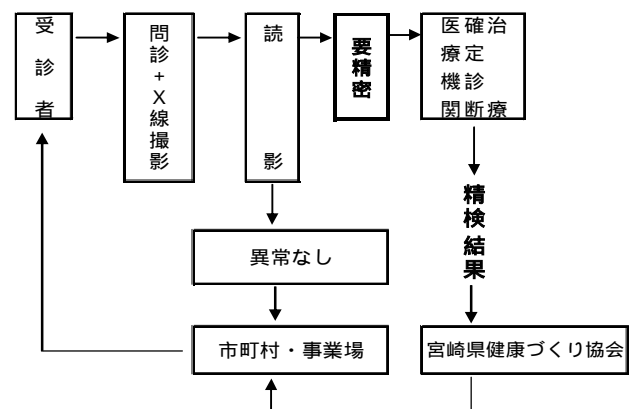
消化器がん検診読影医会(宮崎県内の十分な経験を有する医師21名で構成)の2名以上の医師が読影し、異常所見のある方には、市町村及び事業場の担当者を介し専門の医療機関における精密検査の受診勧奨をおこなっている。

4) 事後フォロー

専門医療機関での精検結果については、確定診断や加療の内容等、詳しい医療情報を提供していただき、検診の精度管理の向上及び市町村への情報提供を行っている。

また医療機関より返信がない場合や、精密検査未受診の方には、市町村及び事業場の担当者と連携し、医療機関への問い合わせや未受診者へ再度受診勧奨をするようにしている。

胃がん検診システム



【実施状況】

平成18年度における総受診者数は27,186名(男性13,341名、女性13,845名)で、男女の比率はほぼ同率であった、この内、住民検診が21,181名(77.9%)、事業場検診が6,005名(22.1%)であった。

年齢階層別にみると、40歳未満1,147名(4.2%)、40歳代4,774名(17.6%)、50歳代7,052名(25.9%)、60歳代7,655名(28.2%)、70歳以上6,558名(24.1%)であり、50歳からの受診者数が多くなっている。(図1)

受診回数別でみると、初回受診者数が2,098名(7.7%)、複数回受診者数が25,088名(92.3%)であった。

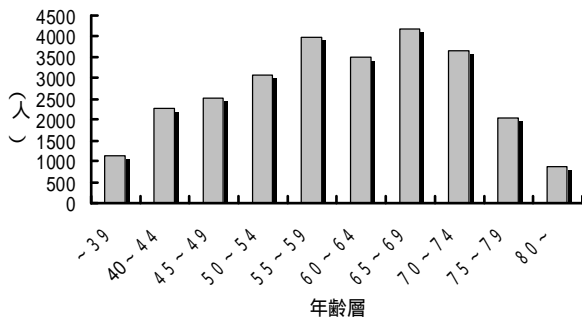


図1 平成18年度年齢階層別受診者数

【検診成績】

平成18年度の受診者に対する要精密検査者数は、2,814名で要精検率は10.4%であった。(表1)

表1 平成18年度検診結果

受診者数	異常認めず	要精密検査	要精検率
27,186	24,372	2,814	10.4%

要精密検査者の医療機関受診者数は2,473名で、精検受診率は87.9%であった。結果の内訳としては、異常なし868名(35.0%)、胃がん37名(1.5%)、胃潰瘍113名(4.6%)、胃ポリープ314名(12.7%)、胃炎480名(19.4%)、その他661名(26.7%)で、総受診者からの胃がん発見率は0.14%であった。(表2)

表2 平成18年度精密検査結果

受診者数	異常なし	胃がん	胃潰瘍	胃ポリープ	胃炎	その他
2,473	868	37	113	314	480	661

【発見胃がんの特徴】

胃がん37名の内訳は、男性28名、女性9名と男性が女性の約3倍を占めていた。進行度別で見ると早期がん26名(70.3%)、進行がん11名(29.7%)で早期がんが多かった。(表3)

表3 平成18年度がん進行度別の内訳

	早期がん	進行がん	計
男性	21	7	28
女性	5	4	9
計	26	11	37

表3を受診回数別で見ると初回受診者は1名(2.7%)で、複数回受診者は36名(97.3%)と圧倒的な割合であった。(表4)

表4 平成18年度受診回数別の内訳

	初回	複数回
受診者数	2,098	25,088
がん発見数	1(0)	36(26)

()は早期がん

表5 全国平均との比較

	受診者数	要精検率(%)	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率(%)
全国(H17)	2,515,391	9.6	80.0	3,239	0.13
当施設	27,186	10.4	87.9	37	0.14

【参考】

現在、老健施設や、病院の入院患者さん方の検診も行っているが、平成20年4月導入の新たなデジタル検診車は、九州初となる聴覚障害者支援システムを搭載し、息止めや、左右の回転等の指示を手話のアニメーションと文字を用いてモニター表示し、安心して受診していただけるようになった。なお高齢受診者に対しては、誤嚥の可能性があるため(年間10件程度発生)、検診前に誤嚥防止を目的とした準備運動のパネルを提示して、注意を喚起している。

【考察】

平成18年度の胃がん検診の受診者数は平成17年度と比較し816名の減であった。

発見胃がん数は37名で、そのうち36名が複数回受診者であり、検診の目的である早期発見のためには逐年検診が有効と感じられた。また、早期がんの占める比率が70.3%と良好な検診結果が得られた。検診成績については、全国平均との比較をしても、要精検率や、胃がん発見率に大差はみられず、精検受診率では87.9%と全国平均を上回る成績であった。(表5)

今後についても検診精度の維持・向上を図るために、撮影技術・読影能の研鑽に励み、市町村や各事業場との連携を深め、受診率の向上に努めていく所存である。

参考文献

- 「がんの統計'07」 国立がんセンター
がん対策情報センター
- 「がん検診の実施状況」 H17年度報告書
日本対がん協会